

New Year Tour

秋田駒ヶ岳

またもや 山スキー-湯治会

メンバー
田代平 藤原 伊藤(川口) 田中(道) 鈴木(由) 安達 鈴木 高橋 柳川 赤旗
と立てながら

田代平山荘を目ざして進む。この辺は悪天候の場合、目印になるものがほとんどなく山荘をさがすのは大変のように思う。時々乳頭山がぼんやり見えるが全貌はありわさない。

山荘に着くと先行パーティが休けいをとっている。私達もここで休けいとる。山荘からはなだらかな登りから尾根谷いに登って行く。頂上に近づくにしたがって雪がほとんどついていなく、ブッシュが見える。強風の為、顔は痛く、まっげが凍ってしまう。

頂上に立ったのもつかの間、板をはずし下る。途中より板を降り、滑り始めるがブッシュが多く、視界も悪い為、思うように滑ることが出来ない。まあ山荘にいったような状態でした。雪がついていれば気持ちのよい滑りの出来る斜面であると思う。乳頭山は、この斜面を除けばあとは樹林帯が多いので滑るころはほとんどない。山荘からは、ミール谷いに滑り、900m地奥に出て、小屋へと滑り込んだ。(記藤原)

12/30. 19:57 発 11甲田53号にて上野を発つ。
17:30 から並んで待た甲斐ありて 全員座って行くことが出来た。乗継ぎも極めて順調で 田沢湖駅に着くと一面の雪景色の中、さらに雪がちらついていた。バスで乳頭温泉に出て30分も平坦な道を行くと孫六温泉である。予想よりずっと快適そうな宿で薪ストーブがある上、温泉はラジウム鉱泉で婦人病に効果がある他子宮にも恵まれるという。初日(12/31)の予定は乳頭温泉スキー場での足慣らしということに早速スキーをつけて出かける。雪質は上々で積雪は170cm。暮から正月にかけての休みとは思えない位おいているゲレンデで思い思いに2-3回滑る。尤もリフトは一基しかなくゲレンデも初級者向きで単調なせもある。早速お茶の時間しようと思つたが、皆の意見が一致。一軒しかない食堂にはいってしばらく休憩の後、購入したリフト8回券分のルマを果たし、明日からの山行の準備運動を兼ね、シールをつけて笹森山への道を辿ることになった。新雪の粉雪で、とろとろウサギの足跡と出会いながら総勢11名で黙々と(?)歩みを進める。出会うPARTYはなかったけれども、その様子は若い男性ボランティアに先導された。姥捨の一行といった感じがヒツクリというところか。途中

田中さんがビンディングのトラブルで引返すことになったが他の者は笹森山(1414m)頂上直下の壁に阻まれる1221mまで進んだ。シールをはずし今シーズン初めての山スキーを楽しむ。雪質は良く登っている時はこまめに木の多い所を滑るのかと思つたが、いざ滑り出すとさほど気にならず、気分爽快にしてアツという間にゲレンデまで戻ってきてしまった。宿に戻って念願の温泉に入る。夕飯の年越しソバの後、極めて大量多種類のアルコールと共に皆でかなり騒々しく夜を過ごす。となりの部屋のラジオが除夜の鐘を叩く頃まで酒宴は続いた。(小幡)

1月1日 乳頭山往復

初日の出は皆んな夢の中……お稚魚でお腹をいっぱいにして、小屋の前よりシールをつける。急登の為沢谷いに回りこむように登り始める。先行したパーティーがいるのでラッセルは、しなくてよい。雪はふわふわの新雪であるが、樹林帯がこみ入っているのであまり期待できないようである。樹林帯を抜ける頃になると天気もくずれ気味で風も強くなる。田代平に出るとまともに風を受ける。

1/2
 五時半に起床。昨日は7時過ぎまで寝すごしてしまったので、今日こそはと、とび起きる。外はまだ暗く、相変らず雪がちらちらと降っている。予定では秋田駒へ登ることになっていたが、天候がちよと心配である。ラーメンの朝食をとり、住み慣れたわか家を出発する。

あまりよいお天気が期待できないので秋田駒をあきらめ、笹森山へ登ることになった。1221m地点までは1/3に登っているのが安心である。今日はリフトを使わず、国民休暇村の右から、ホント天沼いに登る。膝までのラッセルが続き、トツブを交替しながら登る。さう、あんなにさわっていた小保方さんは今日はもうケロツとして元氣そりだ。天候は少しずつ回復してきて、青空も時々のがかせていた。

1221m地点から少し下り、笹森山直下の急斜面を右の方へトラバースする。男性4人が先へ進み、トラバースできる場所を探している間、私達女性も置き去りにされるのではなにかと心配かやする。やっとのことで緩斜面にとりつき、30分程で頂上に着く。登りでは、私のシールが具合いか悪く、みんなに迷惑をかけてしまった。

頂上はだだっ広く、ガスっていて何も見えないので、そうそうにスキーをつけて下る。雪の多い時々は、全部か

れていて滑り場のような斜面であるが、ハイマツがぬえていたり、シカブツがあたりでとても滑りにくい。しかも視界が悪いのので前の人を見失わないように滑るのがせいじっぱいである。

トラバース地帯に戻ったところで再びシールをつけ、尾根をのぼる。そして、もと来た道を、細い木と木の間を通り、低い枝の下をくぐったりして下る。木に激突しやしないかと、緊張の連続である。1000m付近まで下ると、木の間隔も広くなり、みんなおもしろいシカブツで新雪の滑りを楽しんでいる。私は最後の方に滑ったので、みんなはカシブツに足をとられ、ころんでばかりいたのだが……。

小屋に着くと、さっそく温泉に入り、ビーラシキエーの豪華な夕食をとり、話に花を咲かせる。今夜は馬場さんかとてもごきげんである。安達さんが持ってきてくれたお好焼きを食べ、10時すぎに床につく。(柳沢記)

1月3日 晴

一番のバスで鈴木さん、小保方さんが帰京。だんだんさみしくなる。

今日も天気はよく、どこかに登りたい気分だが、予定どおりゲレンデに行く。まず田沢湖高原スキー場へ。3本のリフトのわりには距離は長い。ただし緩斜面。5本か滑って終わりにする。ゆっくり昼食を済ませて次の田沢湖スキー場へ。大まかに

混んでいてリフト待ちが長い。異様な姿の私達。ジロジロと見られ、ヒソヒソ話が聞えてくる。都会風ギャルの会話。「あのレックウオーマーみたいな何かしろ。」マスクを見つけた子ビッコはなんと「狼みたい。」ですって。みんないければ恐くはないけれどゲレンデは場違いのようだ。

時分切水のためシールでは登らず、リフトの一番上から一度滑って終了。夜行で帰る針谷さんを見送って宿に戻る。7人になった最後の夜。少しはしみりするかと思いきや、相変らずの賑やかさだ。安達さん特製のフルーツパンチで食が進み、とても食べきれないと思った水にまも、結局、平うげマレになった。今回は口だけが絶えぬなく動いていたような気がする。食べた、飲んで、しゃべって、笑っているうちに4日間が過ぎマレになった。

1月4日 晴

新幹線で帰京。14:30 上野着。

コースタイム

- 12/31 乳頭スキー場 12:50 — 1200m 地点
- 14:00/14:20 — 乳頭スキー場 15:15
- 1/1 孫六湯 9:25 — 田代平小屋 11:30
- 11:50
- 乳頭山頂 12:30 — 田代平小屋 13:20
- 14:00
- 孫六湯 15:20
- 1/2 孫六湯 7:40 — 国民休暇村
- 8:20 — 笹森山 12:45/13:00
- 国民休暇村 15:30
- 孫六湯 16:00